

第1章 ヘラウキ概論 その2

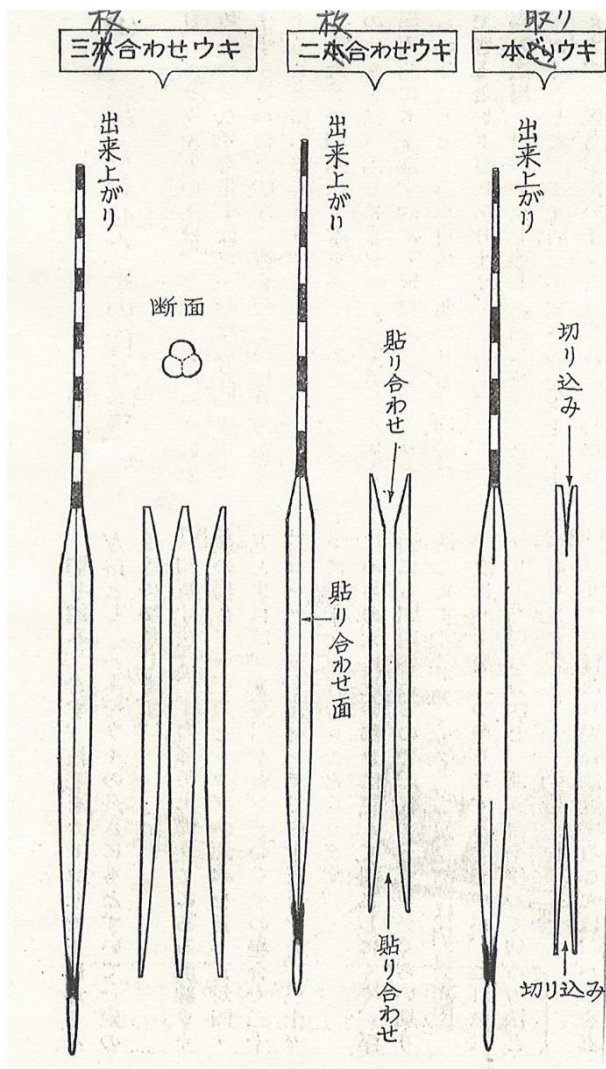
前号では、ヘラウキのボディの素材として代表的な素材であるクジャクの羽根（以下、羽根）とカヤについて、解説してきた。今回は、さらに突っ込んだ解説をしていきたい。

1. 羽根ウキの種類について

ヘラウキのボディにクジャクの羽根を使用したものでも、現在では1本取りと2枚合わせが主流となっている。

過去には、3枚合わせ、4枚合わせといった「多枚合わせ」のものがあったが、カヤウキの直径が太いものが登場してからは、あまり見かけなくなってしまった。（図1参照）

図1



羽根の2枚合わせは、扁平な形をした羽根を2つ割にし、丸い部分の2枚を合わせることで、真円のウキを作る技法である。2枚合わせることにより、孔雀の羽根自体がもつ曲が

りを修正することができる。(画像1参照)

(画像1)：羽根を2つに割にしている様子



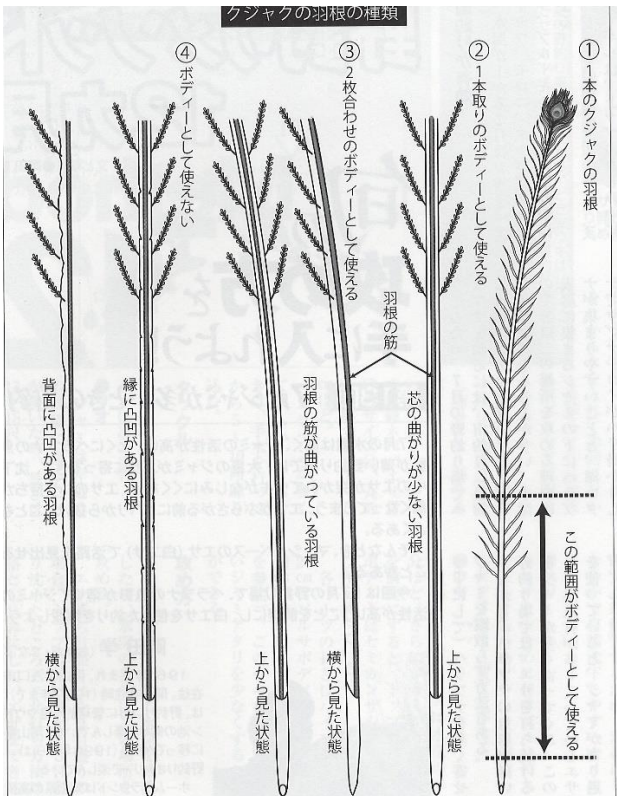
一方、羽根の1本取りは、孔雀の羽根そのもの1本から、ウキを製作する技法である。このため、素材の段階で、真円に近いもの、まっすぐなものが求められる。後述する孔雀の羽根の輸入量の減少に伴い、良材を得ることが益々難しくなっている。

(画像2)

2つ割りした羽根を成型器でカットしている様子



2. 羽根の選別について



羽根の選別について、(1) がクジャクの羽根の全体である。

ウキとして使用できるのは、(2)と(3)の部分である。

(2)のみが、1本取りウキとして使用可能。

孔雀の羽根は扇上に広がるが、曲がりの少ないのは、中央部分から得られる僅かの部分である。

(図3) 孔雀



(2)、(3)が、2枚合わせウキとして使用可能

(4)、特に背面が凹凸なものは、ウキとして使用できない。なぜなら、凹部分は、研磨では修正することが不可能であり、また、凹部分に塗料が入ってしまい、ウキの自重が重くなってしまふからである。

3. クジャクの羽根の現状について

2015年から、インドでの規制強化に伴い、輸入が難しくなっている。

2015年に、羽根の仕入れ先から送られてきた文章に以下のような文言があった。

「孔雀と申しましても、世界的には多くの種が存在します。その中で最もポピュラーなものは、「インドクジャク」であります。雄の孔雀の飾り羽根は、繁殖期に雌に対する魅力のアピールに使用されるもので、1年に一度の繁殖期を終えると抜け落ち、次年度の繁殖期に向けて生え変わります。この抜け落ちた羽根が装飾品の原料として、世界的にも用いられるようになっています。しかしここ数年、インド国では孔雀の羽根の輸出が規制されるようになりました。その原因は定かではありませんが、情報によりますと、自然に抜け落ちる羽根だけでなく、法を無視した密漁による乱獲であること、インドでは神聖な国鳥である孔雀を商売となっているのは怪しからんという批判があるとのことです。」

上記の真偽は定かでないが、輸入量が減少し、価格が高騰しているのは間違いない。

次号では、カヤ材について、突っ込んだ解説していきたい。